



AT THE FOREFRONT

がん治療最前線

医療法人 徳洲会
宇治徳洲会病院
Uji-TOKUSHUKAI MEDICAL CENTER

〒611-0041
京都府宇治市槇島町石橋145番

<https://www.ujitoku.or.jp/>

2019年4月に宇治徳洲会病院は、京都府南部で 初めて地域がん診療連携拠点病院に指定されました。

地域がん診療連携拠点病院とは、地域におけるがん治療の中心となる病院です。

国民の二人に一人が「がん」に罹患する時代において、

地域の皆様に、最高水準のがん治療を提供すべく総力を挙げて取り組んでいます。





呼吸器内科

呼吸器内科医師

部長
齊藤 昌彦

部長
千原 佑介

医員
福井 基隆

医員
高橋 祐希

当院では、放射線診断科や放射線治療科、呼吸器外科、緩和ケア内科と連携し集学的な肺がん治療を行っています。近年、肺がん薬物療法は、がんの原因遺伝子を標的とする分子標的薬や自己の免疫細胞を活性化し抗がん作用を発揮する免疫チェックポイント阻害剤の登場により目覚ましく発展しています。患者さんそれぞれの遺伝子や免疫マーカーを検査し、その結果からそれぞれの患者さんに最も適した薬物治療を行うことが重要であり、当院では気管支鏡(EBUS-GS,EBUS-TBNA)、胸腔鏡、CTガイド下生検、外科的生検など多種の検査によって、遺伝子検査に十分な組織採取ができるようにも努めております。



消化器内科



地域がん診療連携拠点病院

消化器内科医師

部長
古志谷 達也

部長
竹本 隆博

部長(内視鏡センター長)
滝原 浩守

副部長
山西 正芳



日本人の3分の1ががん死し、その半数が消化器がんです。当科では、消化管（食道胃十二指腸大腸）と肝胆膵の消化器がんの診療を行っております。早期発見・診断後は、早期がんの内科的治療（ESD等）、外科治療へのBridge to the Surgeryの内視鏡治療、高度進行がんでの低侵襲緩和治療を行っており、内視鏡・腹腔鏡合同手術（LECS）も行っております。

また、京都府南部の拠点病院として、ダブルバルーン小腸内視鏡やカプセル内視鏡、超音波内視鏡（治療的EUS含む）駆使し高度内視鏡治療も担っています。

医長
碓井 太雄

医員
嘉祥 敬宇

医員
松村 英明





緩和ケア内科

WHO(世界保健機関)による緩和ケアの定義(2002年)では、「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理社会問題、スピリチュアルな(霊的な、魂の)問題に関してきちんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、クオリティー・オブ・ライフ(生活の質、生命の質)を改善するためのアプローチである。」とされています。

すなわち緩和ケアとは、単に痛みなどの身体症状のコントロールだけでなく、心のケアも同時に行い、患者のクオリティー・オブ・ライフ(生活の質)を総合的に高めることを目的とします。

緩和ケア内科医師

顧問
堤 健雄

部長
茶谷 奨

医員
中川 千幸



血液内科

血液内科医師

顧問
安齋 尚之

顧問
今宿 晋作

部長
新堂 啓祐

医長
数馬 安浩

小林 都

令和5年7月に宇治徳洲会病院に着任致しました。それまでの20年間は高槻赤十字病院の血液内科に勤めさせて頂いていました。血液内科では再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病等の非腫瘍性疾患から急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の造血器腫瘍まで多岐に渡る疾患を扱います。個々の症例に応じて緩和的な治療から治癒を目指した積極的治療まで幅広く対応しています。私の方針としては出来る限り治癒を考えた治療を選択することで高槻赤十字病院では特に難治が予想される血液悪性腫瘍に対して同種造血幹細胞移植を施行していました。関西では最も積極的に高齢者の同種移植を行い、通常は移植治療が断念される70歳以上に対しての臍帯血を用いた移植の経験は全国的にみてもトップレベルで一定以上の成績を残せたと考えています。宇治徳洲会は血液疾患の治療に関しては18床の個室を有する無菌病棟がある等、理想的な環境が整えられておりここで治療出来ることに感謝しています。当院は未だ同種移植の経験はありませんが、多少の時間は係るかもしれませんが同種移植を立ち上げ地域に密着するとともに更に幅広い医療を提供出来るように発展させていきたいと考えていますので何卒宜しくお願い申し上げます。

島津 裕



上部消化管外科

胃がんの頻度は、男性では第2位、女性では第5位で、日本人に多いがんです。また胃がんの死亡率は男性第2位、女性第5位であり、依然として死亡率が高いがんです。近年は、治療法の進歩により生存率は年々上昇しており、特に進行がんでの生存率が上昇しております。医療機器や技術の発達が目覚しく、外科治療、内視鏡的治療、化学療法など、集学的な治療が非常に重要となっております。

上部消化管外科医師

部長
橋本 恭一

部長
日並 淳介

副部長
我如古 理規

医長
岡本 三智夫

医員
大森 敦仁

医員
島田 明

医員
竹内 豪

医員
植田 圭祐

医員
武内 悠馬

顧問
仲井 理

医員
野村 勇貴

医員
藤岡 祥恵

当院では消化器外科・消化器内科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科、リハビリ部門、栄養部門、看護部門、薬剤部門など、多職種間で検査・診断・治療をサポートできるように目指しております。

また外科手術は各々の患者さんに最適な方法をカンファレンスで検討し、開腹もしくは腹腔鏡にて、内視鏡外科技術認定医を取得した医師が指導のもと行っております。



下部消化管外科

大腸がん、特に肛門に近い部位に発生したがんに対する手術では、がんを完全に取りきることと肛門を温存することの2つの要求に直面します。宇治徳洲会病院では、①肛門近くにした直腸がんに対しても肛門を温存することが可能なロボット手術（肛門温存手術）、②再発を予防しつつ肛門温存手術を安全に行うための術前の化学放射線療法（抗がん剤治療と放射線治療による最新治療）を組み合わせ、がんの根治と肛門温存の両立を実践しています。ロボット手術はこれま

での腹腔鏡手術の利点をさらに向上させることができると期待され、次世代の医療改革の一端を担った部門と考えられています。ロボット手術では、人間の手の動きを模倣した自由な動き、多関節による繊細な動作を、より直感的に行うことが可能となります。特に、骨盤の深いところで行う直腸がん手術の場合では、このようなロボットの特性を最大限に生かすことができます。ロボットを活用することで、より繊細で精密な手術が行えるため、がんの根治性、肛門・排尿・性機能などの機能温存の向上が期待されています。宇治徳洲会病院では最先端のロボット手術、化学放射線療法に積極的に取り組み、大腸がんの治療成績の改善を目指しています。

下部消化管外科医師

部長
長山 聡

部長
日並 淳介

副部長
我如古 理規

医長
岡本 三智夫

医員
大森 敦仁

医員
竹内 豪

医員
武内 悠馬

医員
野村 勇貴

医員
藤岡 祥恵

医員
島田 明

医員
植田 圭祐

顧問
仲井 理



肝胆膵外科

肝胆膵外科医師

副部長
中山 雄介

副部長
我如古 理規

医長
岡本 三智夫

医員
大森 敦仁

医員
島田 明

医員
竹内 豪

医員
植田 圭祐

医員
武内 悠馬

顧問
仲井 理

医員
野村 勇貴

医員
藤岡 祥恵

肝がん、胆道がん、膵がん、腹腔鏡手術による低侵襲治療から血管合併切除を伴う拡大手術まで、あらゆる外科手術に対応いたします。肝がん、胆道がん、膵がんは難治がんですが、近年の薬物療法、放射線療法の進歩は著しく、また腹腔鏡を初めとする低侵襲手術が多く行われるようになり、その予後は改善傾向にあります。宇治徳洲会病院では、肝胆膵外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科が一体となり、総力を上げて患者様に最善の治療を提供すべく努力しております。



呼吸器外科

原発性肺がん・自然気胸・縦隔腫瘍等の手術を始めとする胸部の外科治療を中心に行っております。疾患の種類やその重症度により治療方法は様々です。幅広い呼吸器疾患に対して最適な治療方法を選択するために、各種の検査（画像診断、気管支鏡、縦隔鏡、胸腔鏡など）を駆使して診療に当たっております。進行肺がんは依然として完治が困難な病気ですが、呼吸器内科や放射線治療科と連携して、薬物療法（抗がん剤）・放射線治療を含めた集学的治療を行っております。がん組織の遺伝子などを調べることにより、効果が期待できる新規薬剤（分子標的薬剤、免疫チェックポイント阻害薬など）を選択することも可能になりました。

入院治療においては、医療の質の向上と入院期間の短縮につとめております。京都府立医科大学呼吸器外科教室とも連携し診療に従事しております。

呼吸器外科医師

部長
伊東 真哉

医員
土橋 亮太



乳腺外科

必ずしも『しこりがあるから診てもらう』ではなく、しこりがなくても、左右差、痛みや違和感など気になることがあれば受診して下さい。月に一回程度の自己検診で気になることがある場合の受診や、症状が無くても健診目的で当科を受診される患者さんもおられます。

乳がんについて、乳がんと乳房切除はイコールだというイメージをお持ちの方もおられますが、そうではありません。早期発見と早期治療で治すことが可能ですし、乳房切除が²必要なく、乳房温存が可能な症例も非常に多いです。

乳腺外科医師

部長
眞島 奨

部長/プレストセンター長
光藤 悠子

医員
藤野 麻琴

受付



婦人科

婦人科医師

部長
青木 昭和

部長
河邊 公志

部長
高原 得栄

副部長
富田 純子

医長
横田 浩美

医員
岩田 隆一

顧問
高田 秀一

婦人科では主に子宮がんと卵巣がんを扱います。子宮がんは子宮頸部にできる子宮頸がん、体部にできる子宮体がん（別名：子宮内膜がん）に分類されます。子宮頸がんはヒトパピローマウイルスが原因として関与しますが、子宮体がんでは、女性ホルモンのひとつであるエストロゲンが間接的に関与します。卵巣がんは種類も多く、症状も出にくいため発見されにくいがんです。欧米に多い病気でしたが最近は日本でも増加しています。いずれも早期発見が重要です。また、子宮頸がんに対しては発症予防のワクチンも日本に導入され、徐々に広がっています。当科は平成29年から島根大学産科婦人科教室と連携して手術を行っており、産婦人科医師数も増加し、診療面で充実してきており手術件数も増加しています。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科

あたま（頭）やくび（頸部）にできる癌（がん）には舌がんや扁桃がん、咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がんなど多くの種類がありますが一つ一つの症例数はあまり多くありません。しかし、頭頸部は外見的に目立つ部位であるとともに食べる機能や会話の機能、呼吸機能に関わる器官で占められていますので、これらの治療には機能や外見を温存しつつ根治を目指すことが重要です。そのために最も効果があるのは早期発見

で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科では最新の機器をそろえて検査しています。また、切除をなるべく限局した手術や抗がん剤を併用した放射線治療での機能の温存を図っています。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師

部長
田中 信三

医長
林 泰之

医員
柏木 真穂

医員
久保 朋子



泌尿器科



尿路悪性腫瘍、前立腺疾患、尿路結石を中心にあらゆる泌尿器科疾患に対応できるように努めております。

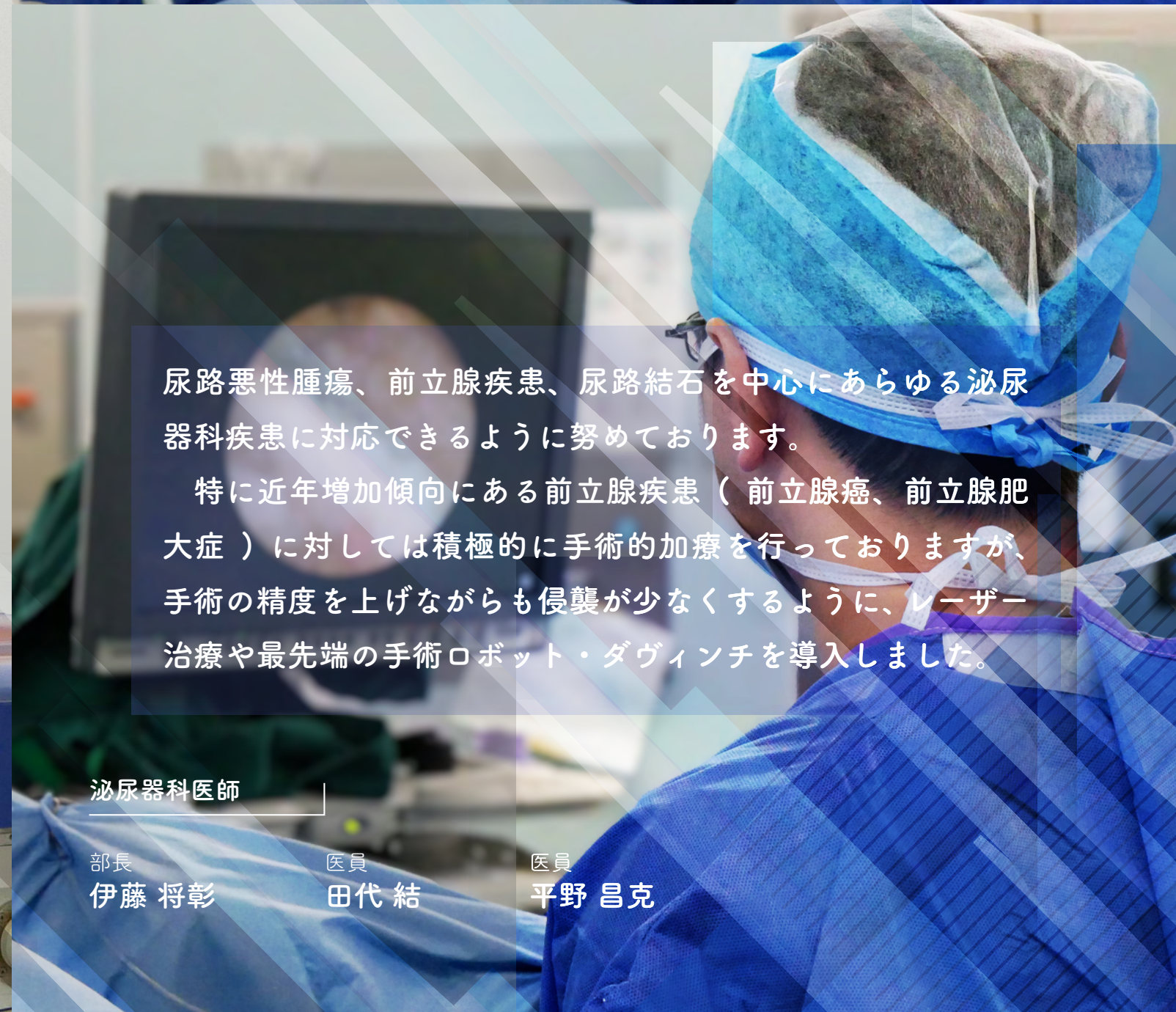
特に近年増加傾向にある前立腺疾患（前立腺癌、前立腺肥大症）に対しては積極的に手術的加療を行っておりますが、手術の精度を上げながらも侵襲が少なくするように、レーザー治療や最先端の手術ロボット・ダヴィンチを導入しました。

泌尿器科医師

部長
伊藤 将彰

医員
田代 結

医員
平野 昌克





放射線診断科

放射線診断科医師

部長
正田 智也

部長
三品 淳資

副部長
今宿 泰

当院の放射線診断科は常勤医 3 名体制です。

正確な診断を常に心がけており、スピード感のある診療の手助けとなる事を第一としています。CT 装置は 3 台体制、MRI は 3 台体制です。四肢関節や脳血管の画質が優れている 3.0T MRI を 10 年前に導入し、四肢関節では診断経験の蓄積があります。

造影 CT 検査では専属の看護師による分業化を進め、救急病院にふさわしい迅速な検査を実現しております。腹部緊急アンギオは心臓血管内科と共同で対応しており、心臓血管内科の協力により対応時間も救急病院にふさわしい体制が組まれています。



放射線治療科

放射線治療科医師

放射線治療センター長
平岡 眞寛

部長
立入 誠司

顧問
芥田 敬三

当科では、定位（ピンポイント）照射や、IMRT 等の高精度治療も実施。放射線治療は通院で行えることが大きなメリットですが、通院の負担軽減のため、自宅・職場と当院間の無料送迎も行っています。また就労支援のため、照射時間は 8 時 30 から 17 時まで対応。いずれも患者様や紹介の先生方から大好評。京都府南部の拠点病院として山城北・南 2 医療圏の医療施設とさらに連携を深め、地域に貢献して参る所存です。宜しくお願い致します。



病理診断科

病理診断科医師

部長
中島 直樹

細胞診、組織診（生検、手術材料）、術中迅速診断、病理解剖などの病理診断を通して、患者さんの病気の診断に関わっています。近年では治療法選択に必要なコンパニオン診断も病理の重要な役割となっています。常勤医師 1 名、非常勤医師 3 名、細胞診に関しては細胞検査士 4 名の協力を得て診断を行っています。

緩和ケア

■ 緩和ケア病棟の理念

がんの患者様とご家族が抱えるさまざまなつらさを緩和し、患者様が自分らしく穏やかな毎を送れるようお手伝いをします。

■ 緩和ケア病棟とは

緩和ケア病棟とは、がんに伴う様々なつらさを和らげるための病棟です。

宇治徳洲会病院ではご家族との大切な時間をお過ごしいただけるよう、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士など多職種と連携して細やかなケアを提供し、患者様が自分らしく穏やかな毎を送れるようお手伝いをします。

また、地域の医療機関や介護保険事業所との連携を通して、患者様・ご家族がご自宅で快適な療養生活を送るための支援も行います。

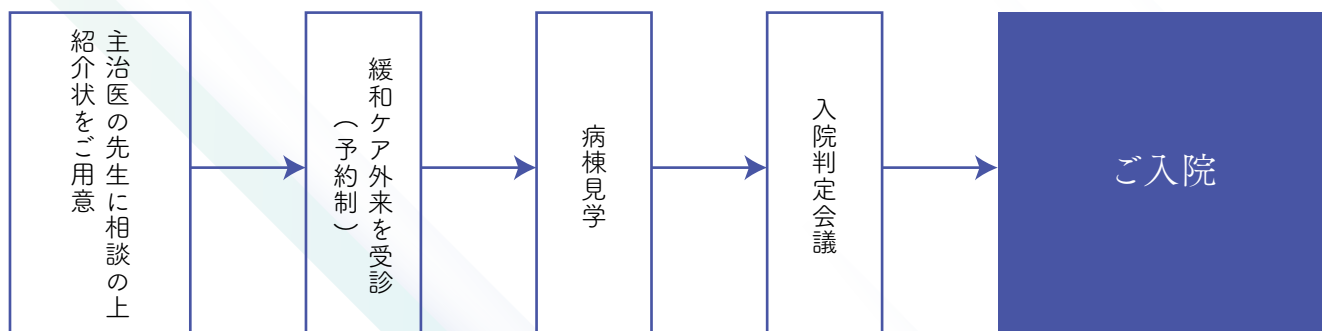
■ 一般病棟との違い

一般病棟とは違い、ご家族やご友人とご自宅で過ごすような和やかな環境となっています。

- 飲酒は他の患者さんに迷惑にならない範囲で可能です。※医師の許可の下
- ペットの面会についてはスタッフにご相談ください。
- 面会時間は 24 時間可能です。
- ご家族の宿泊を伴う付き添いの制限はありません。
- 家族控え室も利用できます。※有料

※2023 年 7 月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止により体制が異なっている場合がございます。詳しくは受診時にご相談ください。

■ 入院までの流れ



■ 緩和ケアチームの紹介

◆ 緩和ケアは、がんに伴う心と体のつらさを和らげます

体のこと、治療のこと、仕事のこと、将来の不安など



◆ 緩和ケアは、がんと診断された時から始まります

がんの治療が始まってから、治療ができなくなってからではなく、診断を受けた時の落ち込みや体の症状から始まります。

◆ 緩和ケアチームは、さまざまな職種の人がチームとなって緩和ケアを行います

- がんの痛みなどのつらい症状や、不安などの精神的な苦痛を和らげ、患者さんとそのご家族がその人らしい生活を送れるようお手伝いする他職種の専門チームです。
- チームメンバーは、栄養士、理学療法士、医療相談員、薬剤師、医師、看護師です。
- 平日、緩和ケアチーム回診を行い、週 1 回は、緩和ケアチームメンバーでカンファレンスを行っています。

◆ 緩和ケアを希望される場合は、主治医や看護師へお伝え下さい。

栄養管理科

■ 栄養管理士の業務

当院の給食部門は病院が直営で運営しており、管理栄養士、栄養士、調理師が患者さんのために協力して食事を提供しています。食事の内容は一般食のほかに糖尿病食や腎臓食などの治療食や、刻み食やソフト食など食事形態に考慮した食事も提供しています。治療で生じる食欲不振や嗜好の問題から食事摂取量が低下している場合は、管理栄養士が病室に伺って個別にあった食事の提供に努めています。

また、外来の化学療法センターで栄養指導を行っている他、術前・術後、治療の副作用の軽減、その他の食事に対する疑問点にお答えしています。安全で美味しい食事の提供と、患者さんの治療に役立つ情報の提供を心掛けて業務を行っています。

■ 取り組みについて

当院の緩和ケア病棟で誕生日を迎えられる方は、「病院からのプレゼント」として誕生日ケーキを提供しています。この誕生ケーキは当院の調理師の手作りで、患者さんと大切な人との素敵な思い出作りのお手伝いが出来ないかと、実施している取り組みです。



病院の数少ない楽しみの一つに食事が挙げられると思います。少しでも患者さんの楽しみや満足感を得て頂ける食事の提供に努めたいと思います。

リハビリテーションセンター

ひと昔前までは「がんは不治の病」とされていたが、現在は医療技術の進歩により「がんと共存する」時代となりました。男女ともに一生のうちに約2人に1人はがんと診断される現在、がんそのものやがん治療の過程で生じた身体障害の軽減、生活能力の改善を目的としたリハビリテーションが必要となってきます。

当院ではがんのリハビリテーション研修終了者を中心にリハビリテーションを提供させていただきます。がんリハビリテーションの対象となる患者さまは様々な病期があり、我々は病状に応じてニーズに合ったリハビリテーションの提供を心掛けています。

■ リハビリテーションの流れ



予防的
がん発見

がん診断後の早期に開始。
機能障害はまだないが、その予防を目的とする。



回復的
治療開始

身体の機能障害やADLなど能力の低下がみられる患者に対して、最大限の機能回復を図る。



維持的
再発/転移

腫瘍が増大し、機能障害が進行しつつある患者のセルフケア 運動能力を維持・改善することを試みる。
自助具を使用、動作のコツ、関節拘縮、筋力低下など廃用予防も含む。



緩和的
末期がん

末期のがん患者に対してその要望（demands）を尊重しながら身体的、精神的、社会的にもQOL(生活の質)の高い生活が送れるように援助する。

がんサロン

がん患者さまやご家族が抱える悩みや体験を語り合う交流の場として、2011年11月より始まりました。毎月第3木曜日12:30～15:30に開催し、予約不要・入退室自由としています。がんと診断されてから落ち込んだり、悩んだりされている患者さまや、家族を見送ったご遺族の方など毎回5～10人ほどの参加があります。また、参加者から講演・勉強会などの依頼があれば、院内のがん診療対策推進委員会へ依頼し開催しています。

がん患者サロン とまり木

がんサロンでは
患者さんおよびご家族の団らん
不安や悩みの相談
がん診療に関する勉強会
情報交換
など、幅広く交流していただけます。



開催情報

毎月第**3**木曜日 12:30～15:30

宇治徳洲会病院
3階 通院化学療法センター



参加
無料

予約
不要

入退場
自由

☎お問い合わせ

0774-20-1111(代)
受付時間: 平日9:00～17:00

がん相談支援センター



「がん」と診断された患者さんとそのご家族さんへ
一度は必ず訪れていただきたいところがあります
それは「がん相談支援センター」です

おひとりまたはご家族とだけで迷いや悩みを抱えていませんか



- ☑ がんと聞いて頭が真っ白。誰かに話をきいてほしい
- ☑ 医師から説明を聞いたけど、難しくてよくわからない
- ☑ 副作用などがつらそうで、治療を乗り切れるか心配
- ☑ 家族ががんと診断された。これからどのように接してあげたらいいんだろう？
- ☑ 治療費が払えるか心配
- ☑ 病気や治療と付き合いながら働けるだろうか

医療ソーシャルワーカー(MSW)や看護師などが、病気や治療のこと、
仕事や生活のことについて、患者さんやご家族のお話を伺って一緒に考えていく場所です

- がんの検査・治療・副作用について(情報収集、セカンドオピニオン)
- 医療者とのコミュニケーション(担当医に自分の疑問や希望をうまく伝えられないなど)
- 経済的負担や支援(活用できる助成・支援制度、介護福祉サービス、仕事や育児、家事の不安)
- 療養生活の過ごし方(自宅で療養したい、ホスピスについて知りたい) ● 家族とのかかわり
- 患者さんや家族さんの心のこと ● 社会とのかかわり(職場や学校) ● 緩和ケアについて

がん相談支援センターでできること

- がんが疑われるとき、治療中、経過観察中、どんなタイミングでも利用できます
- 患者さんだけでなく、ご家族やその病院に通っていない地域の住民の方など、どなたでも無料・匿名で相談することができます
- 相談された内容はご本人の了解なしに患者さんの担当医をはじめ他の方に伝わることはありません
- がんに関する情報を入手することができます(がん冊子の閲覧、無料で入手可)

☎0774-25-2830(直通)

✉soudan@ujitoku.or.jp

宇治徳洲会病院 医療福祉相談室内
月～金曜日(祝祭日を除く) 9:00～16:30

セカンドオピニオン

セカンドオピニオンを直訳すると「第二の意見」。その名の通り、症状や治療方法について現在の担当医以外の医師の意見を聞き、参考にすることを言います。

「自分にとってベストな治療を受けているのか?」「他の治療方法はないのか?」セカンドオピニオンとは、そんな悩みを持つ方が納得して医療を受けるためのひとつの手段です。

対象疾患

がん・腫瘍に関する手術療法・薬物療法・放射線療法について

※一部対象外の疾患および治療もございます。詳しくはご相談ください。

セカンドオピニオン受診後は医師より元の病院の先生へ報告書を送ります。
患者さんには元の病院にて引き続き治療を受けていただきます。

相談に関して必要な物

1. 診療情報提供書（セカンドオピニオン用）
2. 検査資料
 - ・血液検査結果・超音波検査結果・MRI 検査および CT 検査の所見
 - ・検査画像 CD-R・病理検査結果 他、お借りできる限りの検査資料
3. 相談同意書 ※ご本人以外の方がご相談される場合

相談料金

＜受診料金＞ 30分まで：11,000円（以降30分につき5,500円）

¥11,000

～30分

+ ¥5,500

～60分

+ ¥5,500

～90分

セカンドオピニオンの流れ



患者さんより地域医療連携室へご連絡。



お名前や現在おかかりの医療機関名などをお伺いします。



申込書・同意書を記載し、現在おかかりの医療機関からの
診療情報提供書・検査結果と一緒に地域医療連携室宛てに郵送してください。
※追跡確認が可能な郵送方法（書留・レターパックなど）でお送りください。



内容を確認し、地域医療連携室より受診日のご連絡をいたします。



セカンドオピニオンの実施



セカンドオピニオン終了後、会計にて相談料金をお支払いください。
※保険適用外の自費扱いとなります



宇治徳洲会病院 担当医より、現在おかかりの主治医宛て報告書をお送りします。
主治医の先生と今後の治療についてご相談ください。

詳しくは当院ホームページをご確認、または下記ご連絡先までお問い合わせください。

＜セカンドオピニオンに関するお問い合わせ・申し込み＞

☎0774-25-2871(直通)

宇治徳洲会病院 地域医療連携室
月～金曜日(祝祭日を除く) 9:00～19:00

■下記の場合はセカンドオピニオンの対象になりません

- 最初から当院での治療を希望している場合
- 現在の主治医に対する不満の相談や医療訴訟に関する相談を目的とする場合
- 医療費や医療給付に関わる相談を目的とする場合
- 治療後の良し悪しの判断を目的とする場合 ● 亡くなられた方の相談を目的とする場合
- 現在の主治医に了承を得ていない場合
- 診療情報提供書及び検査資料をご用意していただけない場合
- 精神疾患に関する相談を目的とする場合 ● 相談内容が当院専門外である場合

院内がん登録件数(2022年)

院内がん登録とは、「病院においてがん医療の状況を適確に把握するため、当該病院におけるがん患者さまについて、全国がん登録情報よりも詳細な治療の状況を含む情報を収集し、院内がん登録データベースに記録し、及び保存すること」とされています（院内がん登録の実施に係る指針（厚生労働省告示第470号）より）。当院では国指定地域がん診療連携拠点病院として全国がん登録よりもより詳細な院内がん登録を行っています。

治療内容	手術	放射線療法	化学療法	内分泌療法	その他の治療	経過観察	症状緩和的治療
①胃	73.7%	1.0%	19.2%	0.0%	0.0%	24.2%	8.1%
②大腸	93.9%	7.2%	32.8%	0.0%	1.1%	4.4%	6.7%
③肝臓	13.8%	3.4%	48.3%	0.0%	24.1%	24.1%	17.2%
④肺	36.9%	21.3%	40.2%	0.0%	1.6%	23.0%	18.0%
⑤乳房	54.3%	39.4%	26.6%	56.4%	0.0%	2.1%	3.2%
⑥膵	25.0%	7.1%	67.9%	0.0%	0.0%	28.6%	57.1%
⑦女性生殖器	89.7%	3.4%	22.4%	0.0%	0.0%	5.2%	10.3%
⑧前立腺	32.9%	32.9%	3.7%	45.1%	0.0%	0.0%	1.2%
⑨膀胱	80.0%	0.0%	48.0%	0.0%	16.0%	20.0%	8.0%
⑩血液	4.0%	9.3%	65.3%	0.0%	2.7%	25.3%	14.7%

治療前ステージ	stage0	stageⅠ	stageⅡ	stageⅢ	stageⅣ	不明	該当せず
①胃	0.0%	52.5%	11.1%	8.1%	21.2%	7.1%	0.0%
②大腸	15.0%	15.6%	12.8%	21.7%	15.6%	19.4%	0.0%
③肝臓	0.0%	13.8%	27.6%	37.9%	13.8%	6.9%	0.0%
④肺	0.8%	36.9%	9.0%	13.9%	37.7%	1.6%	0.0%
⑤乳房	8.5%	27.7%	31.9%	5.3%	10.6%	16.0%	0.0%
⑥膵	0.0%	17.9%	14.3%	14.3%	53.6%	0.0%	0.0%
⑦女性生殖器	37.9%	24.1%	3.4%	5.2%	15.5%	13.8%	0.0%
⑧前立腺	0.0%	34.1%	22.0%	24.4%	17.1%	2.4%	0.0%
⑨膀胱	52.0%	20.0%	0.0%	0.0%	16.0%	12.0%	0.0%
⑩血液	0.0%	17.3%	12.0%	9.3%	14.7%	5.3%	41.3%

手術件数

胃	開腹	17
	腹腔鏡	14
	内視鏡	41
肝	開腹	8
	腹腔鏡	11
	その他	16
大腸	開腹	91
	腹腔鏡	41
	内視鏡	26
乳房	切除術	32
	温存術	3
肺	開腹	3
	胸腔鏡	61
食道	内視鏡	6
	その他	0
胆嚢・胆管		8
膵		8
泌尿器	腹腔鏡	55
	経尿道的	46
	その他	2
婦人科		69
甲状腺		13
脳		11
皮膚・軟部		34
その他		53

登録件数

部位	合計
頭頸部	44
食道	18
胃	112
小腸	9
結腸	131
直腸	65
大腸(再掲)	196
肝・胆・膵	95
肺	164
皮膚	31
乳房	133
女性生殖器	73
前立腺	99
腎	23
腎盂・尿管	8
膀胱	31
髄膜・脳・神経	11
血液	90
原発不明	13
その他	53
合計	1,164